

別府警察署協議会

第3回会議の開催状況

第1 開催月日

令和6年12月19日（木）

第2 出席者

協議会 委員 6名
警察署 署長、副署長、総務官、刑事官、総務課長、地域課長、交通課長、
警備課長 8名

第3 議事の概要

1 業務説明

警察署から

・管内の治安情勢及び業務推進状況
について説明がなされた。

2 速度取締り指針等について

警察署から

・管内における交通事故状況
・令和7年速度取締り重点
について説明がなされた。

3 諮問事項の説明

警察署から

・諮問事項「高齢者の交通事故防止にかかる施策、現状、課題」
の現状、取組状況及び今後の課題について説明がなされた。

4 委員からの意見等

(1) 業務推進状況について

委員から「別府市は外国人観光客が多いが、外国人観光客が運転するレンタカーに関する交通事故は多いのか」旨の質問がなされ、警察署から「外国人に限らず観光客が運転するレンタカーによる交通事故は多く発生している。重大なものはないが、レンタカーの側面を旅館の塀に擦るなどの交通事故が多いという印象である」旨の説明がなされた。

(2) 速度取締り指針について

委員から「大分県では、横断歩道を横断しようとする歩行者がいても一時停止する自動車運転手の割合が低いと聞いたことがある。どのような対策が有効と考えているか」旨の質問がなされ、警察署から「ひとつは交通取締りであり、もうひとつは広報と安全教育であるとする。一時停止の割合が高い県によると、幼少期から横断歩道では手を挙げてから横断することが安全教育として徹底され、広く県民に浸透しており、その子どもたちが成長して運転者になると、横断歩道に歩行者がいれば当然に一時停止するようになるとのこと。時間はかかるかもしれないが、こういった安全教育が有効と考えている」旨の説明がなされた。

(3) 諮問事項について

- ア 委員から「私ども別府市としては、先般、警察署と協力してSNS型ロマンス詐欺等未然防止のケーブルテレビ広報番組を作成させていただいたが、まだまだ被害が多い現状を理解している。別府市では警察署への協力を惜しむことなく、今後も新たな詐欺の手口や被害防止のキーワードなどを広報周知したい」旨の意見がなされた。
- イ 委員から「母国でもロマンス詐欺が多く発生している。日本だけでない大きな問題と考えている」旨の意見がなされた。
- ウ 委員から「北九州市における事件報道で防犯カメラの有効性を再認識した。高齢者の行方不明の捜索にも防犯カメラは非常に有効であると思う」旨の意見がなされた。
- エ 委員から「防犯カメラは今後益々重要になってくると思う。旅館業界では、どの旅館も複数の防犯カメラ設置を進めている。何かあった場合は警察署への協力と連携をしていきたい」旨の意見がなされた。